

(財) 日本ユニセフ協会 2003年度の活動

1955年6月9日に設立された財団法人日本ユニセフ協会は、先進国においてユニセフを代表する世界37カ国にある国内委員会の一つです。1990年代に入ってから、「子どもの権利条約」に定める「子どもの権利」の実現を目的とするアドボカシー活動（政策提言活動）にも積極的に取り組みました。また、募金活動でも新たな方法を積極的に導入、ユニセフ募金は着実に成長し、2003年度のユニセフへの拠出金は115億円となりました。

その結果、(財) 日本ユニセフ協会の拠出額は、1999年度より5年連続で世界の民間部門中、最高額という実績を残すことができました。

アドボカシー活動

子どもの人身売買の根絶を目指すキャンペーン

日本政府が2002年5月10日（国連子ども特別総会最終日）に署名した「子どもの売買、子ども買春および子どもポルノに関する子どもの権利条約の選択議定書」の早期批准に必要な国内法整備の実現を目指してキャンペーンを行いました。

2003年4月より6月にかけて、署名キャンペーンを展開し、5万人以上の協力を得ました。同時期に、ユニセフハウスにおいて「子どもの人身売買」をテーマとする特別企画展を実施。2003年9月22～23日、韓国ソウルで開催された「国際的人身取引の防止及びパリ・プロセスの中での啓発活動キャンペーンの促進に関する専門家会合」において、東郷専務理事が当協会の本キャンペーン活動について報告を行いました。

同年12月より翌年1月にかけて、関係国会議員に対する働きかけを行い、さらに2004年3月17日に、衆議院第二議員会館において、子どもの人身売買と子どもの商業的性的搾取に関するユニセフ公開セミナーを開催しました。その後、5万人の署名をもって児童福祉法改正案の早期成立を求める国会請願の手続きを取りました。



子どもの人身売買と商業的性的搾取に関するユニセフ公開セミナー ©日本ユニセフ協会

子どもの商業的性的搾取の根絶を目指すキャンペーン

2003年6月9日に、衆議院第一議員会館において、本件に関するユニセフ公開セミナーを開催しました。2004年3月、「児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律」改正案の早期成立を求める国会請願の手続きを取りました。

国連子ども特別総会のフォローアップ

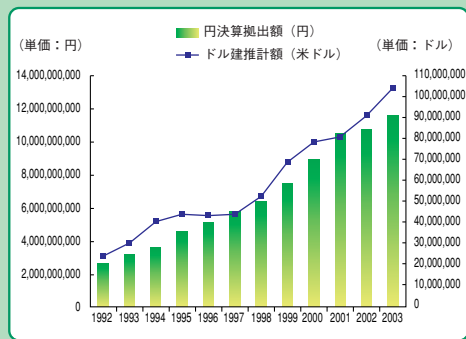
2002年5月8日から10日まで、ニューヨークで開催された国連子ども特別総会では、「子どもにふさわしい世界」という



ユニセフハウスで開かれた「ユニセフ子どもセミナー2003」の様子 ©日本ユニセフ協会

日本ユニセフ協会の拠出金額の推移（1992-2003年）

年度	円決算拠出額	ドル種推計額	決算レート
1992年	2,654,335,508円	23,699,400ドル	112円/ドル
1993年	3,131,358,164円	30,401,500ドル	103円/ドル
1994年	3,603,854,841円	40,042,800ドル	90円/ドル
1995年	4,514,159,422円	44,256,465ドル	102円/ドル
1996年	5,000,599,856円	43,483,477ドル	115円/ドル
1997年	5,754,949,000円	43,542,021ドル	132円/ドル
1998年	6,350,000,000円	51,626,000ドル	123円/ドル
1999年	7,442,000,000円	68,275,229ドル	109円/ドル
2000年	8,922,000,000円	77,893,465ドル	115円/ドル
2001年	10,351,000,000円	80,088,280ドル	129円/ドル
2002年	10,687,500,000円	89,862,387ドル	119円/ドル
2003年	11,500,000,000円	103,466,125ドル	111円/ドル



最終文書を採択しましたが、この文書は各国政府が2003年までに国内行動計画を策定することを定めています。2003年8月6日、この「国内行動計画」に子どもたちの意見を反映すべく、84人の子どもたちによる「ユニセフ子どもセミナー2003」がユニセフハウスで開催されました。

広報活動

ユニセフ・アフリカ・ミーティング

「ユニセフ・アフリカ・ミーティング 今、アフリカで起きていること～ユニセフ若手スタッフによるレポート」が、2003年9月29日、東京・品川のゆうぼうと簡易保険ホールで開催されました。

第3回アフリカ開発会議（TICADⅢ）開催に伴って帰国した、アフリカ各国で働くユニセフ日本人スタッフ13名をスピーカーとして招き、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんがコーディネーターを務めました。当日は若い人を中心におよそ1,500人が集まり、普段なかなか触れることのないアフリカ各国の子どもたちの状況やユニセフの現場での仕事の様子に熱心に耳を傾けました。



ユニセフ・アフリカ・ミーティングの様子。若者を中心に1500名を超える聴衆が参加した ©日本ユニセフ協会/K.Shindo

ティーチ・イン／講演会

2003年4月21日から26日まで、ユニセフハウス1階ホールにおいて、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使がこれまでに訪れた国々の子どもの状況との交流や現地での体験などについて、6日間連続で講演しました。また4月22日午後、同ホールにてベリッツアール賞受賞作家アリス・ウォーカー氏が、アフリカ中西部の国々を中心に女性、そして女子に対して行われてきた女性性器切除の問題について講演を行いました。

資料の作成

全国の支援団体・グループ、当協会道府県支部・友の会、自治体・公共機関、個人の支援者の方々向けに、ユニセフの理解を進め協力活動に広く活用していただける基礎リーフレット、「すべての子どもに 健康、



世界子供白書



アフガニスタン復興支援活動レポート

教育、平等、保護を、ポスターとチラシ「地球の子ども、みんなの子ども」を作成しました。また支援者・団体の方々に、支援の結果報告「ユニセフ活動報告2003」、大きなご支援がありましたアフガニスタン緊急募金の使途とその成果をまとめた「アフガニスタン復興支援活動レポート」をお届けしました。この他に、アフガニスタンの教育支援のためのポスター「アフガニスタンの子どもたちを学校へ!」、青少年団体向け「ユニセフ協力活動の手引き」、生活協同組合の支援活動をまとめた「2003やさしさをかたちにして」ユニセフ協力活動事例集」を発行、プロジェクト支援を行う団体には指定プロジェクトの計画、経過報告、最終報告を提出しました。

日本ユニセフ協会会員やマンスリーサポート・プログラムの参加者の方々に、機関誌「ユニセフ・ニュース」を年4回発行しました。また、ユニセフ子どもネットに登録している子ども向けのニュースレター「ユニセフ子どもネットニュース」を4回発行しました。その他、ユニセフ本部が発行した「世界子供白書2004」[2003ユニセフ年次報告]の日本語版を作成しました。

学校向けとしては、園児・児童・生徒に親しまれやすいチラシと学校向けのポスターを作成・配布しました。また教員用として、開発のための教育の実践事例を掲載した「ユニセフで学ぶ『総合的な学習の時間』」、活動事例を掲載した「ユニセフ活動の手引き」、及びモンゴル・カンボジア・アフガニスタン3カ国の様子等について、映像と説明を組み合わせたCD-ROM「ユニセフと地球のともだち」を作成・配布しました。さらに、ニュースレター「T・NET通信」を年3回発行しました。

ユニセフハウスの展示

ユニセフハウスの1階、2階の展示スペースでは、常設展示のほか、さまざまな企画展示が実施され、子どもの権利の理解推進に役立っています。今年度も、

開発途上国の子ども達の現状と子どもに関する各種の展示企画を年間を通じて行いました。2003年4月1日から6月14日までユニセフパネル展「深刻化する子どもの人身売買」、6月17日から7月18日までユニセフ展「イラクの子どもたちの願い〜イラク北部スーレマニアの子どもの絵」、7月22日から9月19日までポスター展「子どもの参加が未来をつくる」、9月24日から2004年3月31日までユニセフ展「今、アフリカで起きていること」を開催しました。

2003年度には、修学旅行の中・高校生や、ボーイスカウト・ガールスカウトの団体等を中心に、おとなを含め21,424人が訪れました。

パートナーシップと地域ネットワークの広がり

当協会の全国的事業と連携して、地域で多様な広報・学習・啓発の活動に取り組み、また地域の当協会会員・支援者・支援団体・協力企業のネットワークをつくり、地元自治体と報道機関に働きかけを行っているのが、当協会道府県支部・友の会・募金事務局です。こうした当協会地域組織は当協会の正式承認により設立されたもので、学校での学習講師派遣、ユニセフの集いなど地域参加型の広報活動、写真展の開催、資料の提供や視聴覚教材の貸し出し、緊急募金への呼びかけ、ユニセフ・カード&グッズの紹介など幅広い地域活動を担っています。2003年9月に日本ユニセフ協会福島県支部が設立され、11月に日本ユニセフ協会千葉県支部設立発起人会が発足、佐賀県でも県支部設立の準備が進められました。当協会道府県支部は13、友の会は10、ユニセフ募金事務局は3となりました。

当協会の世界の子どものためのパートナーとして、多くの自治体、学校、市民グループ、NGO、そして宗教団体、労働組合、青少年団体、女性団体、奉仕団体等の幅広い団体が、当協会と共に子どものためのアドボカシー・コミュニケーション活動を行い、子どもの権利条約の理解促進、世界の子どもの問題とユニセフ活動の啓発に大きな力となってくださいました。

ユニセフ研修会・セミナー・報告会

当協会道府県支部・友の会・募金事務局には地域の学校、支援団体、自治体などから学習会の講師依頼が数多く寄せられております。このため当協会地域組織の学習講師養成を目的に、8月に札幌市で当協会北海道支部の協力を得て1泊2日の研修会を実施しました。

ユニセフ協力活動に取り組む生活協同組合の推進リーダーを対象に、8月に東京と京都で研修交流会を開催しました。

ユニセフ学校募金の普及を主眼とした「第37回ユニセフ研修会」を全国都道府県教育委員会の指導主事・ユニセフ担当者、及び小・中・高等学校長会の代表者を対象に2004年1月に2日間にわたって行いました。

また、教育現場でのユニセフ活動普及のため、教職員を対象にした「ユニセフセミナー」を8月と2004年3月に行いました。

中・高校生を対象とした「ユニセフリーダー講座」も実施し、ゲスト・トークショー「ネパールのこと」や、「貧困をなくすには ひとりひとりができること」というテーマのもとにワークショップなどを行いました。

ユニセフハウスでは、3月に文部科学省招聘で来日

したアフガニスタンのカヌニ教育大臣が当協会のアフガン教育支援の大きさに感謝の意を表すため、150人の支援者に対し講演を行いました。さらに、イラク緊急事態へのユニセフ緊急支援のためユニセフ・イラク事務所代表と日本人職員による報告会を開催。この他にも、レソトやアフガニスタン、コンボの現場で働く日本人職員やユニセフ・スリランカ事務所代表の報告会などを実施しました。



ユニセフハウス1Fホールにおいて、アフガニスタン・カヌニ教育大臣が講演を行った。©日本ユニセフ協会

講師の派遣

ボーイスカウト・ガールスカウトや生活協同組合、宗教団体などの支援団体の学習会、自治体主催の国際講座、当協会道府県支部・友の会の学習講師養成等に、当協会職員を約50回派遣しました。また、近隣の学校の要請に応じてユニセフ学習会（100回）を行い、ユニセフ理解を深めました。当協会の道府県支部・友の会・募金事務局からも、地域の学校や支援団体、市民講座等へ講師を派遣しており、2003年度の講師派遣回数は580回にのぼりました。



小平市立中央公民館での国際理解講座の様子。各地の学習会、国際講座等に当協会職員を派遣した。©小平市

多様なキャンペーン事業を各地で実施

地域での広報活動の一環として写真展や児童画展、絵本展の展示セットを製作、当協会道府県支部・友の会、自治体、支援団体等の協力を得て全国各地で展示会を開催しました。イラク戦争が始まり、当協会はイラクの子どもたちが描いた児童画「イラクの子どもたちの願い」展を急遽企画、大きな反響を呼び、横浜市、大阪市、さいたま市、神戸市など15都市で開催しました。ユニセフの重点事業の一つエイズをテーマとした「HIV/エイズの危機と子どもたち」写真展は札幌市、糸満市など9都市、「深刻化する子どもの人身売買」写真展は盛岡市など5都市、(社)日本国際児童図書評議会と共催の「世界のバリアフリー絵本展」は熊本市など12都市で開催し、多くの来場者を得て子どもたちが直面するそれぞれの問題についての理解を広げました。また、昨年度からの継続事業として「アフガニスタン写真展」は宮崎市など18都市、人身売買を取り上げた「子どもの権利を買いなさい」原画展は青森市など9都市で開催しました。

国土交通省・日本公園緑地協会をパートナーに子ども参加と国際交流による新しい公園づくりをめざす「ユニセフパークプロジェクト」は、8月に神戸市の国営明石海峡公園で第1回国際子どもワークキャンプを開催、子どもたちが自然体験と話し合いを通じて公園の構想を作りました。

12月を推進月間とするボランティアによる全国的な募金活動「ユニセフハンド・イン・ハンド」



ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」香川県観音寺市内での活動の様子。©ボーイスカウト香川連盟

は、12月23日を中心に全国2,000カ所で約10万人のボランティアが参加して展開されました。

(株)ベネッセコーポレーションの特別協賛を得て共同通信社と企画した「いきる、いきる〜4人のカメラマンが見つめた世界の子どもたち」写真展は、田沼武能、小林正典、長倉洋海、谷本美加の著名な写真家の協力を得て、岡山市、仙台市、奈良市、福島市など9都市で開催し大きな感動を与えました。

ユニセフ・キャラバン・キャンペーン

4年間で全国を一巡して、開発途上国の子ども達の現状やユニセフ活動について理解してもらうユニセフ・キャラバン・キャンペーンを、2003年度は春秋に各1回実施し、近畿地区6府県（兵庫・京都・和歌山・三重・奈良・滋賀）と北陸・中部地区6県（長野・山梨・福井・石川・富山・新潟）を訪問しました。

テレビ電話によるTT（チーム・ティーチング）

高速回線インターネットを活用して、当協会と学校を結ぶテレビ電話形式の授業を、昨年度に引き続き実施しました。全国7校（小学校3、中学校3、高等学校1）の参加があり、ユニセフの活動や開発途上国の子ども達の現状について理解を深めました。

スタディツアー

開発途上国の子ども達の状況と問題、ユニセフの支援活動の現場を見ることで理解を深め、組織や地域、また教育現場で協力活動を促進していただくため、スタディツアーを4組派遣しました。当協会県支部・展示説明ボランティアで構成されるチームを9月に東ティモールへ、支援団体で構成されるチームを2月にミャンマーへ派遣。参加者は帰国後に各地で報告会を開催、また機関誌に報告記事を掲載する等、その成果の普及に努めました。

また、学校募金における指定募金国のユニセフ活動や子ども達の現状を視察するため、全国の教員の中からカンボジアへ1組派遣しました。さらに、国際協力講座の受講者80名のうち10名をミャンマーへ派遣しました。



カンボジアにて ©日本ユニセフ協会/Saeki

国際人材養成プログラム

海外協力の分野により多くの日本の若い人々が従事することを目的に、4つのプログラムを実施しました。

・インターンのユニセフ現地事務所派遣事業

2003年度の応募は54名で、書類選考を経て、当協会選考委員会、一部ユニセフ本部及び欧州総局に依頼して面接選考を行い、8名の合格者を決定。2004年度にユニセフ現地事務所へ派遣予定です。2002年度の合格者7名は、インド、ラオス、カンボジア、ブータン、モンゴル、ベトナムのユニセフ事務所に、1名はユニセフ・イノチェンティ研究センター（イタリア）にそれぞれ3か月から1年間（当協会助成は4か月まで）派遣しました。

・子ども支援NGO国内外研修事業

世界の子どもの問題解決に当たる日本の中小規模6 NGO（民間国際協力団体）スタッフ21名の能力強化

を目指して、国際協力NGOセンター（JANIC）と共同で、国内研修として2月、3月にユニセフハウスで5回の「組織改善のための集中ディスカッション」、その後1泊2日の「アクションプラン作成」を実施しました。海外研修は、8月に2002年度国内研修修了者を対象にインドネシアを訪問。また、海外インターンとして、NGOスタッフ1名をラオスへ派遣しました。

・国際協力講座

第3回目の国際協力講座を開催しました。80名（社会人42名、大学院生8名、大学生30名）が参加し、15回にわたる講座を実施しました。

・国内インターン受け入れ

日本ユニセフ協会事務局において、事務などの実務体験を通じて将来の国際協力を担う人材を養成する事業で、2003年度は延べ15人のインターンを受け入れました。授業の単位として認定する大学も増えています。

ユニセフ研究協力校

今年度より、ユニセフ教材の活用及び開発を行う研究協力校を設け、全国6校（小学校2校、中学校2校、高等学校2校）が研究に取り組みました。ユニセフ研修会において実践事例として報告していただきました。

募金活動

個人・団体・企業・学校・報道機関などのご協力により、2003年度の募金額は約153億2,300万円となり、過去最高額となりました。

個人からの協力

個人の皆様からは、総募金額の約71%、108億6,847万円にのぼるご協力をいただきました。（グリーティングカード募金を除く。グリーティングカード募金についてはP.56参照）

・ダイレクトメールによる募金活動

2003年度は例年の夏、冬2回のキャンペーン以外に、イラクの子どもたちへの緊急支援を目的としたダイレクトメールを4月に発送し、14億4,777万円のご協力をいただきました。ダイレクトメールの総募金額に占める比率は37%に上りました。

・マンスリーサポート・プログラム

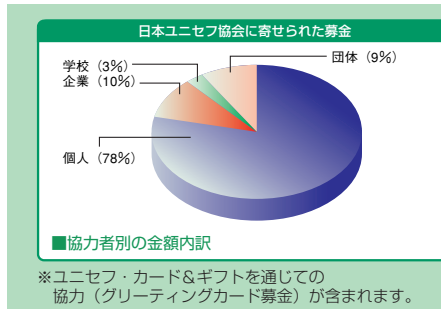
月々一定金額を銀行・郵便口座やクレジットカードより募金いただくこのプログラムは、子どもの成長や状況に合わせて継続的かつ安定的にご支援いただくもので、ダイレクトメールに次ぐ主要なチャンネルです。今年度の総募金額に占める比率は4ポイント増加して28%となりました。

・インターネット募金

インターネットの普及により、より多くの方にホームページを見ていただく機会が増えたことや、銀行・郵便局へ足を運ぶ必要もなく、24時間いつでも募金が可能な利便性から、多くの方にご利用いただきました。

・レガシープログラム（遺贈）

世界の未来を担う子どもたちのためにユニセフに遺産や香典を寄付される方が増えています。欧米では日常的に行われている公益法人への「遺産の寄付」ですが、当協会にもご自身の遺産や、相続財産を寄付される方が増えています。当協会では相続税の控除を受け



学校種別	参加校数	募金額
幼稚園	1,121校	22,821,727円
小学校	9,596校	184,495,192円
中学校	3,936校	92,582,550円
高等学校	2,095校	66,971,232円
大学 他	1,034校	28,478,717円

るための諸手続きや不動産の寄付についての諸手続きなど、遺贈をお考えの方への相談窓口を開設しております。

学校からの協力

2003年度第48回ユニセフ学校募金（2003年4月1日～2004年3月31日）は、全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、各種専門学校の園児、児童、生徒、学生を対象に実施し、参加校は17,782校、総額約3億9,535万円の協力を得ることができました。

団体・企業・報道機関からの協力

世界の子どもたちの生存・発達・保護の基本的な人権を守るユニセフ活動を支援するため、多様な団体、企業、報道機関などが協力活動を行っていただきました。団体・企業・報道機関の緊急募金を含めた募金は約25億6,453万円に上っています。（グリーティングカード募金を除く）

・団体からの協力

立正佼成会は5月を中心に全国的に街頭募金やチャリティバザーなど一食ユニセフ募金活動を実施、子どものための宗教者ネットワークを立ち上げた妙智會教団はアフガニスタン、東ティモール、モリタニア、中国の4カ国の教育を支援。天台宗、浄土真宗西本願寺、妙道会教団、真如苑、中山身語正宗などの宗教団体も教団の内外に呼びかけ、募金活動を行いました。生活協同組合は、ユニセフ募金とラオス・インド・ベトナムの子どもと女性支援事業の指定募金活動を、学習と広報を組み合わせながら展開。日本労働組合総連合会（連合）と自動車総連の労働組合も愛のキャンパよりユニセフに寄付、ボーイスカウトとガールスカウトは青少年のボランティア活動の一環として市民の方々に街頭募金で協力を呼びかけました。また、「世界の子どもにワクチンを」日本委員会はミャンマーのポリオ根絶のためにワクチン供給を支援、東京都民共済生活協同組合（都民共済）も昨年に続きユニセフ協力を行っていただきました。

・企業からの協力

企業からは、タイアップ、ダイレクトメール、募金箱設置などを通して、総額12億7,487万円の寄付をいただきました。

企業が広報・販売促進活動の一環として社会貢献活動を行う「コース・リレイテッド・マーケティング」の企画を通じて多くの企業と提携いたしました。また、継続的な企画として毎年続けていただく企業も増加しています。例えば、ビザ・ジャパン協会、三井住友カード（株）、ユーシーカード（株）、（株）ディーシーカード、シティコープダイナースクラブジャパン（株）、

（株）UFJカードなどのクレジットカード各社や本田技研工業（株）[ホンダCカード]は、利用料の一部寄付やポイント交換のユニセフ寄付において永年ユニセフ活動を支援いただいています。イオングループ、（株）シュガーレディ本社、ボーダフォン（株）、B-Rサーティワンアイスクリーム（株）、住友生命保険（相）各社からは、商品の販売収益の一部の寄付、販促イベントやキャンペーン収益の寄付、店舗・社内での募金活動などの面で協力をいただきました。ソニー（株）では社員の募金と同額をご寄付いただき（マッチングギフト）、日本製粉（株）は社員給与のペイロール（給与引き落とし募金）を推進していただきました。日本航空、全日空では、国際線一部路線機内での募金活動や広報活動を通じてご協力いただいています。

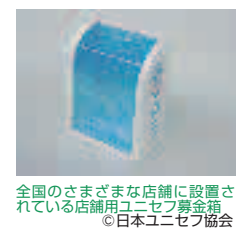
店舗用募金箱はより多くの皆様に募金していただけるよう、コンビニエンスストア、レストラン、ホテル、銀行などを中心に約20,000個が設置されています。設置企業様には定期的な送金と領収書の掲示をお願いし、実際に募金いただく方々への募金の透明性の向上を図りました。また、例年同様、年2回（9月と3月）の定期的なダイレクトメールとイラク緊急ダイレクトメール（4月）を発送いたしました。

・報道機関からの協力

報道機関では、フジネットワーク28社が東ティモールを現地取材し、全国放送を通じて視聴者の方々に支援を呼びかけました。また、毎日新聞社会事業団も現地取材チームを派遣、紙面掲載により募金を受け付けました。

外国コイン募金

日本で両替できずに眠っている外国コインや紙幣を回収し、ユニセフ募金として活用しています。主に成田、関空をはじめとして各国際空港の税関に外国コイン専用大型募金箱を設置し、旅行者に対する呼びかけを行いました。実行委員会として毎日新聞社、日本航空、三井住友銀行、JTB、日本通運各社より、外国コイン募金の告知、受付、仕分、輸送などの分野で継続的な



協力をいただき、募金も着実に増加しています。2003年度外国コイン募金額は1億1,800万円と過去最高となりました。

ユニセフ・カード&ギフトを通じての協力

2003年度も4月から春夏カタログ、8月からは秋冬カタログをご支援者にお送りし、ダイレクトメールによる購入協力を中心に、当協会地域組織による各地域での普及活動、生協・百貨店・スーパー・専門店などのお取り扱い、メディア・イベントなどを通じてのご協力など、様々なチャンネルでユニセフ製品の普及活動を推進してまいりました。その結果、前年度比0.7%増の13億7,648万円の実績を達成することができました。

16年間毎年放映のご協力をいただき、2004年3月で終了したテレビ朝日系列「ニュースステーション」での黒柳徹子ユニセフ親善大使によるユニセフ・カードセットによる協力の呼びかけでは、本年も日本全国から6,480セットにおよぶ購入のお申し込みをいただきました。百貨店・スーパー・専門店などの小売チャンネルでは、ユニセフのクリスマスカードや年賀ハガキを特にご指定くださる多くの支援者に支えられています。昨今の個人消費の低迷を打破することは非常に難しく、本年も引き続き前年度を下回る結果となりました。



ユニセフハウス1階のユニセフ Cards & Gifts ©日本ユニセフ協会

ユニセフハウス内CARDS & GIFTSショップの営業は、月曜日～金曜日（祝日を除く）と毎月第2・第4土曜日のユニセフハウス開館日、10:00～18:00です。ショップにはユニセフハウス来館記念のお土産として、カタログに掲載していない小さなギフト製品などを幾つかご用意しています。

2003年度ユニセフ製品別の購入協力数・金額の内訳は、グリーティングカード234万枚／4億605万円、ハガキ321万枚／1億6,983万円、ギフト製品302,249点／8億60万円となりました。

緊急・復興支援募金

・イラク戦争

2003年3月に開始されたイラク戦争は、子どもたちに大きな被害をもたらしました。その後の大規模戦争の終結は戦闘の縮小をもたらしましたが、子どもの生存と発達に必要な保健・医療サービスは施設破壊や医薬品不足などで停滞、水と衛生の分野におけるサービスも施設の破壊や略奪に遭い活動は著しく低下、教育は治安が不安定なことから通学に支障をきたすなど、戦争は子どもに大きなダメージを与えました。

当協会は戦争開始直後よりユニセフの緊急支援のための緊急募金活動に入り、チラシやポスターの製作、ホームページなどによる情報の発信、ユニセフ・イラク事務所代表による報告会の開催などにより子どもの状況を逐次お知らせし、支援者の方々や支援団体に協力を呼びかけました。イラク緊急募金には、2004年3月末日までの累計で18億7,131万円のご協力をいただいています。

・イラン地震

2003年12月26日にイラン南東部で大地震が発生、数万人の死者を出す大惨事となりました。震災地では家屋のみならず、病院、学校の大半も倒壊、子どもの生存と発達に大きな影響を残しました。多数の子どもが両親かどちらかの親を失い、子どものほとんどは身近な親戚や友人を失う体験をして精神的ショックが大きく、トラウマ（心的外傷）を残すことになりました。

当協会は年末年始の休暇期間にも職員を事務所に駐在させ、現地情報を収集、ホームページなどを通じて情報発信を続けました。この期間にも全国から募金が寄せられ、新年の業務開始に伴い支援団体の緊急募金活動も始まり、当協会はチラシとポスターを製作、協力活動に提供しました。イラン緊急募金には、2004年3月末日までの累計で1億6,518万円のご協力をいただいています。

日本ユニセフ協会 道府県支部・友の会・募金事務局

道府県支部

- 北海道支部
〒063-8501 札幌市西区発寒
11条5-10-1 コープさっぽろ本部2F
Tel 011-671-5717 Fax 011-671-5758
(電話は月・火・木・金 10時～16時)
- 青森県支部
〒038-0012 青森市柳川2-4-22
青森県生協連2F
Tel 017-761-6841 Fax 017-766-3136
- 岩手県支部
〒020-0180 岩手県滝沢村土沢220-3
いわて生協本部2F
Tel 019-687-4460 Fax 019-687-4491
- 宮城県支部
〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45
フォレスト仙台5F
Tel 022-276-5143 Fax 022-276-5160
- 福島県支部
〒960-8106 福島市宮町3-14
労金ビル4F
Tel 024-522-5566 Fax 024-522-2295
- 埼玉県支部
〒336-0018 さいたま市南区南本町
2-10-10 コープラザ浦和1F
Tel 048-823-3932 Fax 048-823-3978
- 千葉県支部 (4/2設立)
〒264-0022 千葉市若葉区桜木町
526-1 ちばコープ本館1F
Tel 043-226-3171 Fax 043-226-3172
- 奈良県支部
〒760-8214 奈良市東向2街21-1
松山ビル3F
Tel 0742-25-3005 Fax 0742-25-3008
(電話は月・水・木 11時～15時)
- 大阪支部
〒530-0003 大阪市北区堂島
2-2-15 3F
Tel 06-6344-5878 Fax 06-6344-5882
(電話は月～金 11時～16時)
- 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-

- 18 コープこうべ生活文化センター4F
Tel 078-435-1605 Fax 078-451-9830
- 岡山県支部
〒700-0822 岡山市表町1-4-64
上之町ビル1F
Tel 086-227-1889 Fax 086-227-1889
(電話は月・火・木・金 10時半～13時半)
- 香川県支部 (9/9設立)
〒760-0054 高松市常盤町2-8-8
コープかかわコミュニティルーム3F
Tel 087-835-6810 Fax 087-835-6810
- 九州本部 (福岡県支部)
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-3-6
西日本シティ銀行本店別館内
Tel 092-476-2639 Fax 092-476-2634
- 佐賀県支部 (4/10設立)
〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2
Tel 0952-28-2077 Fax 0952-28-2077
- 熊本県支部
〒960-0807 熊本市下通町1-5-14
メガネの大宝堂下通店5F
Tel 096-326-2154 Fax 096-356-4837
(電話は月・水・金 10時～13時)
- 宮崎県支部
〒880-0014 宮崎市鶴島2-9-6
みやざきNPOハウス307号
Tel 0985-31-3808 Fax 0985-31-3808
(電話は月・水・金 11時～16時)

友の会

- 水戸の会
〒311-4141 水戸市赤塚1-1ミオス2F
水戸市社会福祉協議会ボランティアセンター
Tel 029-254-4361 Fax 029-254-4361
- 平塚友の会
〒254-0014 平塚市四之宮2-24-17
石井方
Tel 0463-54-2562 Fax 0463-54-2562
- 石川友の会
〒921-8162 金沢市三馬2-39
Tel 076-243-0030 Fax 076-247-6186

- 西濃友の会
〒503-2300 安部郡神戸町692-1 谷村方
Tel 0584-27-2512 Fax 0584-27-2512
- 三重友の会
〒510-0242 鈴鹿市白子本町19-29
杉方
Tel 0593-86-6881 090-4799-3808
Fax 0593-86-6881
- 京都緑部友の会
〒632-0021 綾部市本町2-14
あやべアートセンター内
Tel 0773-40-2322 Fax 0773-40-2369
- 下関友の会
〒750-0016 下関市細江町2-2-1
原弘産ビル9F
Tel 0832-32-5245 Fax 0832-32-5248
- 北九州支部
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町3-5-5
西日本シティ銀行北九州地区本部内
Tel 093-511-0926 Fax 093-521-4314
- 久留米友の会
〒830-0013 久留米市柳原町4-70
石橋財団教育館内
Tel 0942-34-2345 Fax 0942-34-2346

募金事務局

- ユニセフ募金京都事務局
〒604-0862 京都市中京区烏丸通奥川上ル
京都商工会議所6F
Tel 075-211-3911 Fax 075-211-3944

2004年11月11日現在

（財）日本ユニセフ協会

2004年3月31日現在、登録されている法人・一般・学生会員口数は、合計8,877口。

ユニセフに協力するには...

- ユニセフ募金は、全国どこの郵便局からでも送金できます。

●募金口座

00190-5-31000

●口座名義

(財)日本ユニセフ協会

財団法人日本ユニセフ協会は特定公益増進法人としての認定を受けており、募金には寄付金控除が認められています。

- クレジットカードでも募金ができます。

アメリカンエキスプレス、DC、ダイナース、JCB、UFJ、UC、VISAジャパングループ、NICOS、JALカード、セゾン、バンクカード、イオン、OMC、ティースキュービックスカードがお取り扱いできるカードです。カード番号、有効期限とご寄付の金額をお伝えください。
*一部お取り扱いできないカードがございます。カードの種類によりプレゼントポイントの対象とならない場合がございます。

- 子どもたちを継続的に支援する
マンスリーサポート・プログラムにご参加ください。

毎月、一定額を金融機関や郵便局の口座から、またはクレジットカードにて自動振替させていただき募金プログラムです。マンスリーサポーターの方には機関誌「ユニセフ・ニュース」(年4回発行)のほか、シンポジウムのご案内などをお送りします。

- グリーティングカード、プロダクツをご利用ください。

世界の美術館や画家から協力をいただいた美しいデザインのグリーティングカードやハガキ、文房具をご紹介します。Tシャツ、マグカップ、バッグなどの製品も扱っています。ユニセフ製品は価格の約半分がユニセフの現地活動資金となります。お問い合わせ・カタログのご請求は、TEL: 03-3590-3030までお願いいたします。インターネットでもご覧いただけます。http://www2.unicef.or.jp/card/cardtop.html

- 会員を募集しています。

日本ユニセフ協会では、ユニセフの活動への理解と協力を求めて、会員を募集しています。機関誌「ユニセフ・ニュース」(年4回発行)のほか、シンポジウムのご案内や各種資料をお送りいたします。

- 支部、友の会、募金事務局の地域活動に参加してみませんか。

地域でボランティア活動をしたいという方は、当協会の支部、友の会、募金事務局の活動にご参加いただく方法があります。

お申し込み、お問い合わせは...

0120-881052

http://www.unicef.or.jp

ユニセフ年次報告 (2003年1月1日~12月31日)

著 : ユニセフ (国連児童基金)
訳 : 日本ユニセフ協会
発行 : 財団法人日本ユニセフ協会
(ユニセフ日本委員会)
〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
電 話 03-5789-2011 (代)
ファクス 03-5789-2032

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

「ユニセフ年次報告」は、ユニセフ (国連児童基金) が作成し、日本ユニセフ協会が翻訳し、53ページ以降に日本ユニセフ協会の2003年度活動報告を追加して記載しました。転載をご希望の場合は、日本ユニセフ協会にお尋ねください。

写真クレジット : (表紙) ©UNICEF/HQ00-0578/Noorani; (P.2)©UNICEF/HQ03-0123/Markisz; (P.3)©UNICEF/HQ03-0222/Noorani; (P.4)©UNICEF/HQ-97-0202/Prout; (P.6)©UNICEF/HQ03-0019/Noorani; (P.7)©UNICEF/WCAR/Page; (P.8)©UNICEF/HQ02-0008/Bronstein; (P.10) ©UNICEF/HQ01-0126/LeMoyné; (P.11)©UNICEF Serbia and Montenegro/Jovanovic; (P.12)©UNICEF Bolivia/2003/Cuellar; (P.14)©UNICEF/HQ00-0867/LeMoyné; (P.15)©UNICEF GRO/2003/Seidel; (P.16)©UNICEF Mozambique/Pirozzi; (P.18)©UNICEF/HQ02-0320/Pirozzi; (P.19)©UNICEF/HQ03-0393/Vitale; (P.20)©UNICEF/HQ03-0350/LeMoyné; (P.22)©UNICEF/HQ01-0301/Noorani; (P.23)©UNICEF Jamaica/Alsbirk; (P.24) ©UNICEF/HQ01-0067/Brandt; (P.26)©UNICEF/HQ99-0504/Horner; (P.27)©UNICEF/HQ98-0818/Horner; (P.29)©UNICEF Angola/2004/Elder; (P.30)©UNICEF Australia/2003/Sheargold; (P.35 上から下へ)©UNICEF/HQ03-0333/LeMoyné, ©UNICEF/HQ03-0414/Markisz, ©UNICEF/HQ03-0404/Markisz; (P.36)©UNICEF/HQ99-0501/Horner; (P.40) ©UNICEF/HQ03-0460/Noorani; (P.50-51左から右へ)©UNICEF/HQ99-0342/Horner, ©UNICEF/HQ97-0526/Murray-Lee, ©UNICEF/HQ99-0965/Holmes, ©UNICEF/HQ00-0740/Pirozzi, ©UNICEF/HQ03-0106/Noorani, ©UNICEF/HQ99-0625/Pirozzi, ©UNICEF/HQ02-0265/Pirozzi

子どもたちの笑顔のために



ユニセフでは、グリーティング・カードをはじめ、季節のご挨拶やお子さまへのプレゼントに最適な知育玩具、衣類、世界の工芸品などの様々なギフト製品をご紹介します。

ユニセフ製品は、定価の約50%がユニセフの現地活動資金等として開発途上国の子どもたちのために役立てられます。



製品に関するお問い合わせ

(財) 日本ユニセフ協会カード事業部
TEL: (03) 3590-3030

月～金曜日 9:00～18:00 (土・日・祝日を除く)
<http://www2.unicef.or.jp/card/cardtop.html>

気軽にできる国際協力 クレジットカードでお買い物、自動的にユニセフ募金

クレジットカードで買い物をすると、その利用代金の一部が自動的にユニセフ募金になるシステムをご存じですか? 現在、「ユニセフVISAカード」と「ユニセフDCマスターカード」及び「ユニセフダイナースカード」が発行されております。日本国内でのショッピングご利用金額の一部が、各カード会社よりユニセフ募金として本協会へ寄付されます。会員のご負担は一切ありません。

カードで買い物するだけで、途上国の子どもたちを支援できるシステム。みなさんも参加してみませんか。

なお、各カードの入会基準やサービス等、クレジットカードに関するお問い合わせは下記の各会社までお願い申し上げます。(入会申込についても対応しています)



● 「ユニセフVISAカード」について
三井住友VISA入会案内デスク
☎0120-816437
<http://www.smbc-card.com>

● 「ユニセフDCマスターカード」について
DCご入会ダイヤル
☎0120-10-2622
<http://www.dccard.co.jp>

● 「ユニセフダイナースカード」について
ダイナースクラブ・コールセンター
☎0120-074-024 (24時間・年中無休)
<http://www.diners.co.jp>

各カードの入会申込書のご請求は、日本ユニセフ協会のフリーダイヤルでも承っております。
☎0120-881052 (ハハトコニ) (受付時間: 9:00～18:00 土・日・祝日休)

(財) 日本ユニセフ協会

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
ホームページ <http://www.unicef.or.jp>